

宇宙・衛星ビジネスの強み

アジア最大の 衛星通信事業者

スカパーJSATは北米上空からインド洋上空まで18機の衛星を所有する、日本唯一そしてアジア最大の衛星通信事業者です。2016年度には3機の後継衛星の打ち上げに成功し、成長性の高いアジア・太平洋域のカバーエリアを拡大しました。

グローバル・ モバイル市場 で成長

衛星通信の
可能性が
広がるね



安心・安全 を支える 衛星通信

総務省は非常用通信手段に関するガイドラインで、衛星通信手段の確保を推奨しています。東日本大震災以降、BCP対策として衛星通信需要が高まる中、当社は災害に強く信頼性の高いインフラを提供し、皆様の生活の安心・安全を支えています。

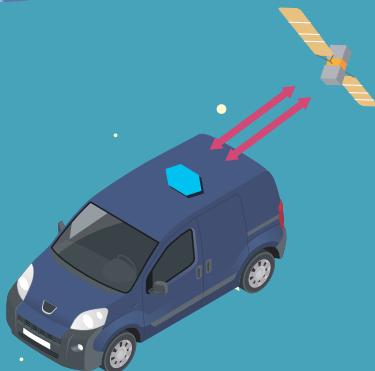
衛星通信は災害時の医療救護活動や遭難事故などの緊急連絡手段にもなります。通信手段のない山岳地域などでのWi-Fi接続サービスや、災害現場と医療チームを結ぶ連絡手段として、当社の衛星ネットワークシステムが活用されています。

宇宙・衛星事業では衛星の広域性、同報性、耐災害性などのメリットを活かし、衛星通信サービスを提供しています。社会の安心・安全を支えるとともに、衛星利用領域を拡げ、新しい事業分野を切り拓く宇宙・衛星ビジネスの強みをあらためてご紹介します。

航空機内でのWi-Fi 利用など船舶、航空機内におけるインターネット回線需要が拡大しています。2016年に打ち上げに成功したJCSAT-2B、JCSAT-110Aはアジア・太平洋、南インド洋域にカバーエリアを拡げ、拡大する船舶・航空機向けモバイル通信需要を取り込みます。

2018年にはインテルサット社と共同で当社初のHTS (High Throughput Satellite) 衛星Horizons 3eを投入し、さらに2019年には別の海外オペレータと共同で、2機目のHTS衛星を打ち上げます。HTS衛星はスポットビームを多数搭載し、隣り合わないエリアで同じ周波数を繰り返し使うことにより、従来の衛星より通信容量が約10倍となり、更なる増加が見込まれるアジア・太平洋地域での衛星通信需要への対応を可能とします。

また、Sバンドを搭載したJCSAT-17を2019年度に投入し、日本国内の通信需要にも対応します。



新規宇宙 ビジネス へ進出

低軌道衛星などの新たな宇宙ビジネスが注目される中、当社も新規宇宙ビジネスに積極的に参入しています。

2015年9月には超小型衛星開発の(株)アクセルスペースに出資し、超小型衛星を活用した地球観測網の構築に参画しています。2016年12月には低軌道衛星向け地上局サービス大手のノルウェー企業Kongsberg Satellite Servicesと戦略的業務提携を行い、低軌道衛星関連事業を加速するとともに、海洋情報サービスへ事業へ参入しました。2017年3月には新しい衛星通信分野の開拓を目指し、平面アンテナメーカーである米国Kymeta Corporationとの戦略的業務提携を行うなど、新事業領域への進出を進めています。